

北野牧落石対策工事を通じた 事業理解促進と企業広報

山岸 愛・山岸 睦功

東日本高速道路(株) 関東支社 長野工事事務所

(〒380-0904 長野県長野市七瀬中町161-1ハーモニー七瀬ビル本館5階)

上信越自動車道本線直上にある落石リスクのある岩塊を除去する工事を行っている。前例のない工事であることや、落石対策工として設置した斜面足場が話題となり各種マスコミで取り上げられるなど注目度が高い。北野牧落石対策工事の理解促進又は当事務所の上信越道リニューアル事業全般への理解促進目的で行った「現場視察・一般公開」。広報側での活用として工事で発生した“落ちない石”を袋詰めした「不落石お守り」を2024年度に7,000個以上、2025年度に13,000個以上で、合計(両年度累計)20,000個以上配布した。それが「事業の理解醸成・企業PR」へと繋がっている。事務所一体となった取り組みは現場発の広報モデルとして紹介する。

キーワード 現場視察, 一般公開, 不落石お守り

1. はじめに

長野工事事務所では、上信越自動車道・北野牧トンネル上部にある落石リスクのある岩塊を安全に除去する工事を行っている。将来的な落石リスクの排除と高速道路の信頼性向上のため、岩盤そのものを撤去する予防保全工事や設置した斜面足場が話題となり、前例のない難工事に挑む姿勢と技術力はメディアでも注目・高評価されている。当事務所では、事業推進の必要性について理解醸成を図る必要があることから工事を利用した広報活動を実施している。事務所一体で行った取り組みを現場発の広報モデルとして紹介する。

2. 現場視察・一般公開の取り組みについて

現場視察は工事の理解促進又は当事務所の上信越道リニューアル事業全般への理解促進を目的として行っているが、中でも北野牧落石対策工事が注目され、2024年6月NHKの「解体キングダム」という番組で放送された。結果として、2024年度の視察回数が2023年度の2倍以上である146回となり数字でもわかる反響となった。社員のみならず施工管理員及び派遣社員に教育をし共に視察対応することで乗り切ることができた。また、SNSでも

話題に取り上げられ、お客様センターにも現場視察を希望する声が入るほど一般的にも認知度が高いということが分かった。それを踏まえた上で、2024年6月と11月に一般公開を実施し、お客様から直接工事を見ていただける場を設けた。会社のホームページにて参加者を募ったところ応募倍率は50倍以上となり、大反響を得る結果となった。直接顔を合わせた情報発信は単なる広告以上の効果を持ち、実際に来場いただいたお客様からは好評の声を多数いただき、事業理解・企業PRに繋がった。こうした取り組みが円滑な工事推進を支える。



写真- 1 一般公開の様子

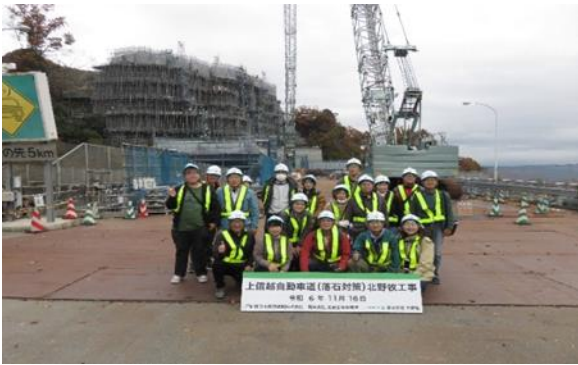


写真- 2 一般公開の集合写真

表-1

	仕様	価格(1個あたり)	時間(1個あたり)
当初(写真-3)	キューブ型ボックス、水引	140円(資材単価ベース)	6分
現在(写真-4)	透明袋、不落石に関する紹介	約2円(資材単価ベース)	1分

3. 不落石の取り組みについて

(1) 経緯

不落石とは工事の広報活動の一環として北野牧落石対策工事の「落ちなかった」岩石を用いた合格祈願のお守りのことである。落石リスクがある岩石にも関わらず、高速道路に1つも落とさずに無事故無災害である結果と受験にかけて不落石と名付けられた。当初は視察者限定で持ち帰りを実施していたが一般の方へも無料配布を検討し、北野牧トンネル近傍の横川SA(上下)で2024年12月より無料配布を開始した。その後地元の中学・高校の受験生にも配布を行った。

(2) 不落石の工夫

不落石をお客様へ配布するにあたり、試行錯誤を行った。当初は横川SA(上下)でクリアケース型(写真-3)を25個設置後すぐ配布終了し、その後問い合わせが続いたため大量生産をすることになった。大量生産にあたり制作時間とコストが課題となったため、比較検討した結果フィルムラッピング型(写真-4)が採用された。具体的には、現場で小さい岩石を拾い集め水で汚れを落とし、北野牧落石対策工事の概要動画二次元コードと不落石の紹介が書かれた名刺サイズの紙と一緒に透明な袋に詰めるという方法である。時間とコストは大幅削減されて大量生産が可能となったこと、工事概要動画の二次元コードを印刷した紙を入れることで事業理解促進に繋がるため採用された。これにより、地元の中学・高校の受験生たちへの無料大量配布が実現した。

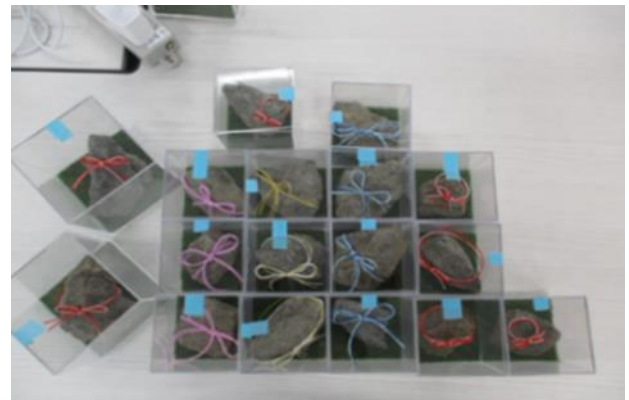


写真-3 当初の不落石



写真- 4 現在の不落石

(3) 結果

受験生たちへの配布と横川SAの設置で2024年度結果は7000個以上の配布、2025年度結果は13000個以上の配布となり、不落石は群馬県・長野県の各新聞でも取り上げられ一般的にも広く周知された。また、2025年1~2月に長野県の民放4局が「不落石お守り」を受験生に贈る話題を報道した。実際に長野市の信大付属中学校で配布する様子や不落石にあやかる生徒の声が放送され、大きな反響を得た。それ

により横川 SA には「不落石お守り」目当ての来訪者が相次ぎ、在庫が尽きるほど多くの受験生やその家族が足を運ぶ結果となった。メディアで大きく取り上げられたことで本工事の知名度は飛躍的に向上し、難工事を支える技術と安全への取り組みが伝えられ、企業のイメージ向上にも寄与している。



写真-5 受験生へ配布している様子

の広報活動や地域連携の発展においても大きな基盤となるものである。



写真-6 現場見学の様子

4. 地域連携

(1) 学校との協働

受験生への配布を契機に地域の学校との関係が深まり、2025 年 7 月と 10 月に中学校 3 校から職場体験授業への協力依頼を受けるなど教育連携が進んだ。北野牧落石対策工事、若穂スマート IC の現場視察(写真-6)や理想の IC・PA・SA をテーマにしたグループ発表・逆面接座談会、NEXCO 東日本長野管理事務所での管理部門業務視察を通じ、インフラ事業を身近に感じてもらう機会となり、事業理解促進や将来のリクルート活動に寄与している。また、2024 年度に続き 2025 年度に不落石を受け取る学校へ生徒自身が先輩への感謝や受験に向けたエールを込めた台紙デザイン・お守りプラカード(写真-7)の制作と受験シーズン前の不落石贈呈式の提案をし、取り組んだ。プロジェクトの透明性と効率化のため各担当を配置し、対象校の担当者、進捗、スケジュールの管理を行った。その結果、地元の 11 校の中学校・高校に 1854 個の配布となり、2026 年 1 月に長野県の民放で放送され県内メディアでの大きな反響に繋がった。こうした成果は、今後



写真-7 お守りプラカードの作成例

(2) 横川 SA での取り組み

高速道路をご利用のお客様に安全への取り組みと受験生応援のメッセージを伝え、プロジェクトの意義を広く周知することを目的とした「応援メッセージカード」システムを 2025 年度から導入した。桜の木が描かれているポर्टに桜型付箋を用いてお客様に応援メッセージを書いていただくといったシステムである。受験生らを励ます応援メッセージを添えた桜の開花をイメージした装飾(写真-8)によって春の訪れを感じられる温かい雰囲気づくりに努め、これらの工夫により受験生に前向きな気持ちをお届けつつ、事業理解促進と企業イメージ向上にも

つながる取り組みとなった。



写真-8 横川 SA に設置した応援メッセージカード

5. リスク対応・運用設計

本取組は話題性が高く、問い合わせ増加や配布物の転売等が発生し得ることから、運用上のリスクを整理し、安全最優先の運営と情報の一元化、ならびに配布運用の統一を基本方針として対応した。

(1) 安全最優先（現場公開・視察対応）

現場公開・視察対応は安全を最優先とし、天候・現場状況等により内容の変更または中止を行う運用とした。対外説明にあたっては、想定問答等により事実関係・説明方針を統一し、迅速かつ適切な情報提供を行えるよう整理した。

(2) 配布物の転売等への対応（趣旨逸脱の抑止）

無償配布の趣旨に反する転売等が確認された場合に備え、配布物等への注意喚起（例：「営利目的での転売・譲渡はご遠慮ください」）を行う方針とし、実際の対応においても同趣旨の文言追加等を実施した。

(3) 問い合わせ導線の統一（公平性・運用負荷の低減）

配布場所、在庫の有無、取り置き可否等については公平性の観点から運用を統一し、案内内容のばらつきを抑える整理を行った。問い合わせ対応は所定窓口で受け付け、必要に応じて担当部署が対応する運用とした。

6. おわりに

本報文では、北野牧落石対策工事を通じた事業理解促進と企業広報について紹介した。工事を行うためには周辺道路の利用等でご迷惑をおかけするため地域の方々の理解が大事である。岩石を活用して地域貢献すること、一般公開で事業理解していただくこと・喜んでいただけることが企業のイメージUP・事業推進の理解醸成へと繋がっていくため今後も地域の方々にご協力いただけるよう取り組みを続けていく。

謝辞：北野牧落石対策工事の視察にあたり多大な協力をいただいた大林組の皆様、併せて、地域の学校関係者の皆様、株式会社ネクスコ東日本エリアトラクトの皆様の支援により事業理解・企業PR活動を遂行できた。ご指導とご協力をいただいた多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。